

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402501		
法人名	有限会社 滋正福祉会		
事業所名	グループホーム ムーミンの森		
所在地	福島県いわき市常磐関船町上関70-1 (電話) 0246-43-3821		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.8.5	評価確定日	H20.10.24

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 18 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 2人, 非常勤 7人,	常勤換算7.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造在来工法	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		要介護2		1	名	
要介護3	3	名	要介護4		3	
要介護5	2	名	要支援2			
年齢	平均	85.4 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さかもと内科胃腸科クリニック、織田歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームはいわき市湯本町の新興住宅地にあり、住民間の日ごろの交流が少ない中であって、地域密着型の事業所としての地域住民との交流や協力関係作り而努力している。また、事業所の近くにある協力医療機関の医師の理解と協力のもと、定期受診以外にも2週間に1回の往診があるため、利用者や家族にとっては安心できる事業所となっている。さらに、利用者は家族の希望があれば、その協力医との連携で「看取り」を行う方針を設立当初から打ち出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の結果を踏まえ、ホーム長、業務統括主任を中心に職員全員で改善課題に取り組み、話し合いながら「地域住民との交流」「安心できるホーム」作りを目指した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長、業務統括主任が主に自己評価項目を検討しまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議の出席者は、協力医、地区長、家族代表、ホーム長、業務統括主任である。主に報告中心の会議となっているため、意見交換を行うことが課題となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの要望は、家族が来訪した時に面接するなどして聞き取り、職員会議で話し合い、運営に反映させるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所が新興住宅地(新築一戸建てやアパートが多い)にあることから日中人がいないため、地域の人との交流は多くない状況である。それでも、事業所で行事があった際には、近隣に調理したもの(ヤキトリ等)を配ったり、事業所で飼っている犬を見に子供が訪れたりしている。四季の花を届けてくれる協力者もいる。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ごく自然且つ当たり前の生活」「地域における役割を常に認識し、愛されるホーム作りを目指す」という独自の理念を作成した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に必ず理念を伝えている。また、毎朝のミーティング時には、理念を「ムーミンの森の約束」という表現で唱和している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が新興住宅地(新築一戸建てやアパートが多い)にあることから日中人がいないため、地域の人との交流は多くない状況である。それでも、事業所で行事があった際には、近隣に調理したもの(ヤキトリ等)を配ったり、事業所で飼っている犬を見に子供が訪れたりしている。四季の花を届けてくれる協力者もいる。	○	利用者が事業所の職員とのみ生活を共にする状況にならないよう、運営推進会議でも協議しながら、地域の人との関わりや出会いのきっかけ作りに努めてほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議にて評価の意義を周知している。前回の評価結果が出てから、退職者が相次いだこともあり、思うような改善ができなかった。	○	今回の自己評価と外部評価の結果を受け、職員間で話し合いながら、具体的な改善計画をつくり、着実によい方向に向けて努力してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、協力医、町区長、家族代表、ホーム長、統括主任である。会議内容がホーム長からの報告が中心であり、課題解決のための意見交換は活発に行われていない。</p>	○	<p>今回の評価結果を受けて、運営推進会議でも改善すべき内容を議題の中心にして、活発に意見交換を行ってほしい。また、家族からの意見を聞く機会にするためにも、家族が年に1回は会議に出席できるような取り組みも期待したい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の金銭管理状況は出納のコピーを請求書とともに同封して家族へ報告している。また、家族が来訪した時には時間を設け、生活状況や体調等を報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの要望は、家族が来訪した時に面接するなどして聞き取り、職員会議で話し合い、運営に反映させるように努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係の重要性は十分認識しており、職員が退職する際には送別会、採用時には歓迎会を利用者も交えて開き、利用者に不安感を与えないように配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での職員の育成は、職員会議を通じてホーム長や業務統括主任が主に行っている。年間を通し職員全員が研修会参加の体制を取っていたが、この一年で退職と新規採用が数名あったため、計画的に職員の育成が進められなかった。	○	ホーム長や業務統括主任のみが個別的に職員を指導する体制ではなく、リーダー的職員を位置づけし、まずはリーダーを育成することから始めてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及びいわき地区グループホーム連絡協議会に入会し、ホーム長や事業統括主任が会議や研修に参加しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。又、今年度はいわき地区グループホーム連絡協議会の事務局となって、ネットワークづくりにも取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な支援にならないよう、利用者から今迄の経験や得意な事を教えてもらいながら、常に感謝の気持ちを忘れずに利用者と共に過ごすようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話の中からはもちろんのこと、特に利用者が思いや意向を話す機会が多いホーム内でのサークル活動(月1回)時の会話を重視している。意思疎通が困難な利用者については、家族から情報を得るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりを通して、利用者や家族の思いや意見を把握し、介護計画を作成しているものの、結果として職員にとって課題が多く記載されている介護計画になっている。	○	利用者が生活する上での課題とその課題に対する介護についての計画として作成してほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が把握した利用者の状態の変化を記録しているものの、介護計画の見直しは6ヶ月おきにしか行っていない。しかも見直しした計画はいずれも現状維持ということになっている。		把握した利用者の変化を現状の介護計画と照らし合わせ、必要な場合は随時介護計画を見直してほしい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居時に本人と家族に同意を得て、事業所の協力医に切り替えてもらっている(内科・胃腸科)。協力医は、2週間に1回往診をしていただいている。かかりつけ医に受診する場合は、家族による受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては、利用者や家族の希望があれば終末期ケア(看取り)を行う基本方針であり、利用開始時に家族に説明している。又、利用者の状態の変化に応じて、医師や家族も交え、随時意思を確認しながら対応している。	○	終末期ケアを行うという基本方針を口頭のみで説明するだけでなく、文書としてまとめ、その文書により利用者や家族、医師と方針を共有してほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝職員ミーティングで、プライバシーの尊重や個人情報の取り扱いについて確認しあっている。また、入浴の際には、特にプライバシー配慮した介護を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、それにこだわらず、利用者の体調や表情を見ながら、希望に添った生活の支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のペースに合わせ、食事の準備後片付け等を行うことを支援している。又、前後も含め食事の時は職員も同じテーブルを囲み、会話を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせ主に平日の午後の入浴としているが、希望があれば平日以外でも入浴はできようとしている。利用者の意向に沿った支援を心掛けている。ゆったりと入浴できるよう、浴槽は広めになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとり人に合わせて、掃除やレク活動の準備、畑仕事などの楽しみごとを支援している。積極的に得意な分野で力を発揮できるように配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ドライブ、近くのコンビニへの買い物、散歩等気分転換のための外出支援に重点を置いている。又、車椅子の重度の利用者であっても、体調に気を配りながら事業所前の公園に散歩に行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関やテラスへの出入りに鍵をかけず、自由生活を支援している。利用者の一日の行動を職員間で把握しており、その日の言葉や表情から、外出や庭へ出たい利用者には、職員が付き添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一年に一回、消防署の協力を得て避難訓練や消火訓練を行っている。	○	利用者も参加した避難訓練や夜間を想定した避難訓練を年間計計画を立てて実行してほしい。なお、避難訓練は事業所のみで行うのではなく、隣近所や地域の消防団にも参加いただくよう協力を求めている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記入し、職員間で情報を共有している。又出された食事を食べられない場合は、代替食も用意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	回廊式の廊下からは中庭が見え季節感をいつも感じることができる。リビングにはやわらかい光が一日を通して入り、適度な明るさとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた物が置かれている。箆箆や仏壇を持ち込んでいる利用者いる。居心地の良い居室になる様に配慮している。		

 は、重点項目。



3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ムーミンの森

記入担当者名 藤原 滋

評価結果に対する事業所の意見

特になし

**評価結果に対する「事業所の意見」の記入について**

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。